

アジア研究教育ユニット（世界展開力・特別経費）2014 年度教育研究報告書

事業課題名	ガジェットデバイスを利用した多言語教育・研究支援ツールの開発研究
代表者名	河野泰之
事業概要 (600 字程度)	<p>本事業では、iPad mini に代表されるガジェットデバイスの多言語対応機能を利用した図書館における教育・研究ツールを開発している。昨年度は図書館利用者サービスだけでなく図書館業務面でも展開できないかと模索したが、仕様面において本学業務システムへの応用が困難とわかり、もっぱら教育・研究ツールとしての利用可能性を追求している。初年度は、iPad mini を OPAC 検索端末として利用し東南アジア諸語初学者や母語とする留学生に対して提供し、その多言語対応機種としての有用性を確認した。今年度は、多言語機能を利用して教育コンテンツ開発事業と協働して、当該コンテンツをガジェットデバイスに直接組み込み、授業等に利用することをめざした。</p>
成果の概要 (800 字程度)	<p>本事業では、別途 KUASU 事業別枠で展開中のパスファインダー作成と連携して、ガジェットデバイスに組み込むコンテンツを充実させて、端末そのものをいわばパスファインダー化し利用者が図書館内で自在に利用できるように試みた。</p> <p>ガジェットデバイス端末として、iPad mini、iPad air の2機種を用意し、各端末内の iBook にコンテンツを組み込み、閲覧可能とした。コンテンツには、附属図書館から提供を受けた図書館利用と KULINE 検索のコンテンツを東南アジア研究所図書室用に修正・英訳して組み込んだ。</p> <p>2014 年 10 月にインドネシア・ガジャマダ大学・本学院生に対するメディアリテラシー教育授業で実際に利用してみたところ、本国において OPAC 検索は慣れていないがスマホは使い慣れているというアジア諸国からの留学生にとって、iPad のようなガジェットデバイスを利用して OPAC 検索を覚えていく授業は受け入れやすい内容であったようである。この試みは、第 16 回図書館総合展ポスターセッションで公開(※1)した。次いで、別途多言語対応データベースとして構築中の「東南アジア逐次刊行物データベース」をコンテンツとして追加した。2015 年 2 月に科学技術新興機構の日本・アジア青少年サイエンス交流事業「さくらサイエンスプラン」においては、ベトナム人10名の図書館情報学研修に利用(※2)し、次いで国内東南アジア研究拠点図書館員14名の研究会においても利用した。</p> <p>ガジェットデバイスの図書館ツール利用はそのモバイル性を活かした例が常であるが、本事業では利用対象が東南アジアということもあり、多言語機能に着目している。今後ともコンテンツを増やして、モバイル端末に慣れた若い世代の教育・研究ツール開発を行っていく。</p> <p>※1 第 16 回図書館総合展 報告: http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/event/20141105-07/2014-11-05/#201401105_report</p> <p>※2 さくらサイエンスプログラム活動報告 http://www.cseas.kyoto-u.ac.jp/2015/02/20150202/</p>



第16回図書館総合展パネル展示によるガジェットデバイス（スマートフォンやタブレット等モバイル端末）の図書館における利用例も含めた紹介



国内東南アジア研究拠点図書館員対象の研究会において iPad を使った利活用についての研究発表